

災害用伝言サービスについて

災害時の緊急連絡について

地震等の災害が発生した場合、多くの方が電話を利用するため、電話がつながりにくくなります。電気通信事業者各社では、安否の確認や避難場所の連絡等をスムーズに行うため以下の各種「災害用伝言サービス」を提供しています。

災害用伝言ダイヤル(171) 固定電話の方

災害用伝言ダイヤル(171)は、被災地内の電話番号をキーとして、安否等の情報を音声情報として蓄積し、録音・再生できるボイスメールです。

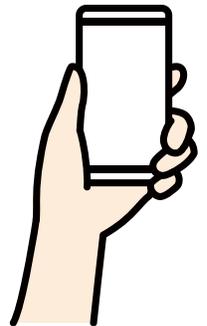
被災地の方が録音した安否などに関する情報を他の地域の方がお聞きいただけるほか、他の地域の方から被災地の方へメッセージを送ることも可能で、伝言を他人に聞かれたくない場合は暗証番号を設定することもできます。「171」をダイヤルし、利用ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生を行ってください。

- ◆ 利用可能な電話は、固定電話、公衆電話、ひかり電話(電話サービス)、避難所に設置する特設公衆電話からご利用できます。
- ◆ 詳細はNTT(東西)ホームページの「災害用伝言ダイヤル(171)」でご確認ください。

災害用伝言板 携帯電話・スマートフォン・パソコンをお持ちの方

「災害用伝言板」とは、大きな災害が発生した時に、被災地域にお住まいまたはご滞在中の方が、携帯電話やスマートフォンからご自身の状況を登録していただくことができ、登録された安否情報はインターネットなどを通じて、各社の携帯電話やパソコンなどから確認することができる災害時専用のサービスです。また、あらかじめ指定したご家族や友人に対して、災害用伝言板に登録したことをメールでお知らせしたり、被災地の方に災害用伝言板への安否情報の登録を依頼することも可能です。

- ◆ 詳細は以下の各社ホームページの「災害用伝言板」でご確認ください。
※ NTT(ドコモ)、KDDI(au)、ソフトバンクモバイル、ワイモバイル



災害用伝言板(web171) 携帯電話・スマートフォン・パソコンをお持ちの方

NTTでは、電話(音声)による「災害用伝言ダイヤル(171)(電話サービス)」に加え、伝言情報を文字情報(テキスト)として登録・閲覧を可能とする「災害用伝言板(web171)」を提供しています。

このサービスは、災害等の発生時、被災地域(避難所等含む)の居住者がインターネットを介して伝言板サイトにアクセスし、電話番号をキーとして伝言情報(テキスト)の登録が可能で、登録された伝言情報は、電話番号をキーとして全国(海外も含む)から閲覧、追加伝言登録が可能となります。また、利用者情報を登録することにより、伝言メッセージ登録時に「メール・電話による通知」を希望した場合、利用者が指定したメールアドレス・電話番号宛に伝言メッセージの通知を行うことができます。

- ◆ 詳細はNTT(東西)ホームページの「災害用伝言板(web171)」でご確認ください。



災害に強い地域は、自主防災組織づくりから!

地域で結成される自主防災組織とは、『自分たちの町は自分たちで守る』ということを目的に、地域の防災活動を効果的に行うための組織です。みなさんの防災活動への積極的な参加により地域の連携をより深め、行政や各防災機関と共に災害に強い町づくりをしていきましょう。災害が発生した場合、被害を最小限にとどめるため防災関係機関・団体は、総力を挙げて災害応急活動に取り組みます。しかし、地震など規模の大きい災害では、防災関係機関だけでは対応に限界があります。そんな時、地域のみなさんが自主的・組織的に消火、救出、救護などの防災活動を行うことで、地域の人命救助や財産保護などに大きな力となり、災害による被害を最小限に抑えることができます。

地域ぐるみで「防災」を考えよう!!



地域防災

地域で支えあう避難支援への取り組み

災害が発生したとき、避難に時間がかかったり、自力で安全な場所へ避難することが困難な高齢者や障がいのある人（避難行動要支援者）がいます。このような人が災害時に地域の中で支援が受けられるように名簿を作成し、本人の同意を得たうえで、必要な支援内容などの情報を警察・消防など（避難支援等関係者）に提供しています。こうした避難行動要支援者を災害から守るために、普段の見守りなど、地域で協力し合いながら支援していきましょう。

避難行動要支援者の特性

- 1 災害の危険を察知することが困難である。
- 2 自分の身に危険が差し迫っていても、支援者に助けを求めることができない、もしくは困難である。
- 3 危険を知らせる情報を受け取ることや正しく理解することができない、もしくは困難である。
- 4 危険を知らせる情報を受け取っても、それに対応して行動することができない、もしくは困難である。

避難行動要支援者を守りましょう

平常時には

日ごろから地域の人たちと避難行動要支援者が交流し協力して、避難行動要支援者の支援体制をつくる必要があります。

1 防災訓練への参加

避難行動要支援者と一緒に避難経路や避難所が確認できます。また、避難時に避難行動要支援者にとって、どのような支援が必要になるのかを知ることができます。

2 避難行動要支援者の身になって防災環境を点検する

放置自転車などの障害物はないか、耳や目の不自由な人や外国人向けの警報や避難の伝達方法はあるかなど、避難行動要支援者に対応した環境づくりをしましょう。

3 日ごろから積極的なコミュニケーションを図る

避難時の支援活動をスムーズにするためには、避難行動要支援者とのコミュニケーションを日ごろから図っておくことが大切です。

災害時には

避難行動要支援者は、一人では身の安全を確保することが困難です。災害時、地域からは積極的に声をかけて、手助けしましょう。

1 避難するときはしっかり誘導する

一人の避難行動要支援者に対して複数の住民で支援するなど、地域で具体的な体制を決めておきましょう。隣近所で助け合いながら避難するようにしてください。

2 安全に避難できるように支援する

目が不自由な人には、階段や障害物を説明しながら進みましょう。耳が不自由な人には、身ぶりや筆談などで正しい情報を伝えましょう。避難行動要支援者が安全に避難できるよう支援しましょう。

3 困ったときこそ温かい気持ちで

非常時にこそ、不安な状況に置かれている人の立場に立ち、支援する心構えをしましょう。困っている人や避難行動要支援者に対し、温かいおもいやりの心で接しましょう。

防災士について

防災士とは、「自助」「共助」「協働」を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを日本防災士機構が認証した人のことを言います。

防災士の役割

防災士は民間の資格のため、災害時の活動に権限や責任はなく、あくまでも個人の意思によるボランティア活動になります。

防災に対する知識を高め、志と使命感をもって活動することが期待されています。災害時には防災リーダーとして自発的にボランティアに取り組み、役場やボランティアの方々とは協働して活動していきます。

平常時に期待される防災士の行動

- 地域・企業・団体での防災啓発活動、救急救命知識の普及活動
- 防災訓練・避難訓練等の企画・開催
- 防災計画の立案等

災害時に期待される防災士の行動

- 地域での避難誘導・救助活動等の率先行動
- 避難所の運営・手伝い
- ボランティアなどの団体との協働等

より詳しい内容は「認定特定非営利活動法人 日本防災士機構」のHPよりご確認ください。



避難所での過ごし方

避難所は、体育館や公民館など場所によって異なりますが、快適な生活を送るために設計されたものではなく、限られた空間の中でたくさんの方々が生活します。住民が主体的に避難所運営に関わり、みんなで支えあいましょう。

緊急時の集団生活では、ストレスや疲労から体調を崩してしまうこともあります。マナーとルールを守り、良好な環境を保ちましょう。

また、女性やLGBTQ(性的少数者)など多様な個性に配慮した避難所運営を心がけましょう。

避難所生活の注意点

■ 共同生活

定められたルールを守り、避難者もできる範囲で役割分担し助け合いの精神で過ごしましょう。

■ 生活環境

ごみは分別し、決められた場所に捨てましょう。
トイレはきれいに使いましょう。



■ 安全配慮

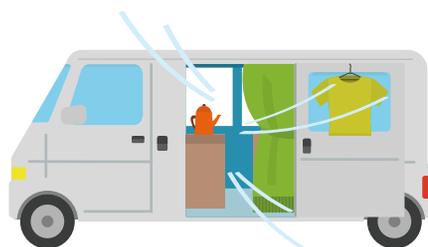
避難所には、不特定多数の人が出入りします。
不審なことに気がいたら、管理者などに報告しましょう。
共有スペースは火気厳禁です。

■ 要配慮者への思いやり

障がいのある方や高齢者、妊産婦などには、手助けをしましょう。
おむつ交換や補装具交換が必要なときは、間仕切りやカーテンを設けるなどの配慮をしましょう。
ちょっとした工夫と配慮で、みんなが生活しやすい環境をめざしましょう。

■ 車中泊での注意

体を伸ばしたり、ストレッチをしたりして同じ姿勢のままではないようにしましょう。
エンジンを切って、排気ガスの吸入を防ぎましょう。冬は重ね着などで防寒対策をしましょう。



避難所についたら

■ 避難所名簿で受け付けをします

避難者名簿は、長期になる場合の食料数の把握や避難者の安否確認のために必要です。

■ 居場所、レイアウトを決めます

車いすの通行路を確保してください。近くに障がいのある人のために壁際を空けておきます。
自主的な避難所運営にご協力をお願いします。



■ 女性やLGBTQ(性的少数者)への配慮

避難所運営に関わる場合は、以下のことに気を付けましょう。

- 男女を問わず利用できるスペースを設置しましょう。
- 男女共用のユニバーサルトイレを設置しましょう。
- 更衣室や入浴施設は、ひとりずつ使える時間帯を設けるようにしましょう。
- 男女別の救援物資を人目に触れずに届けるようにしましょう。

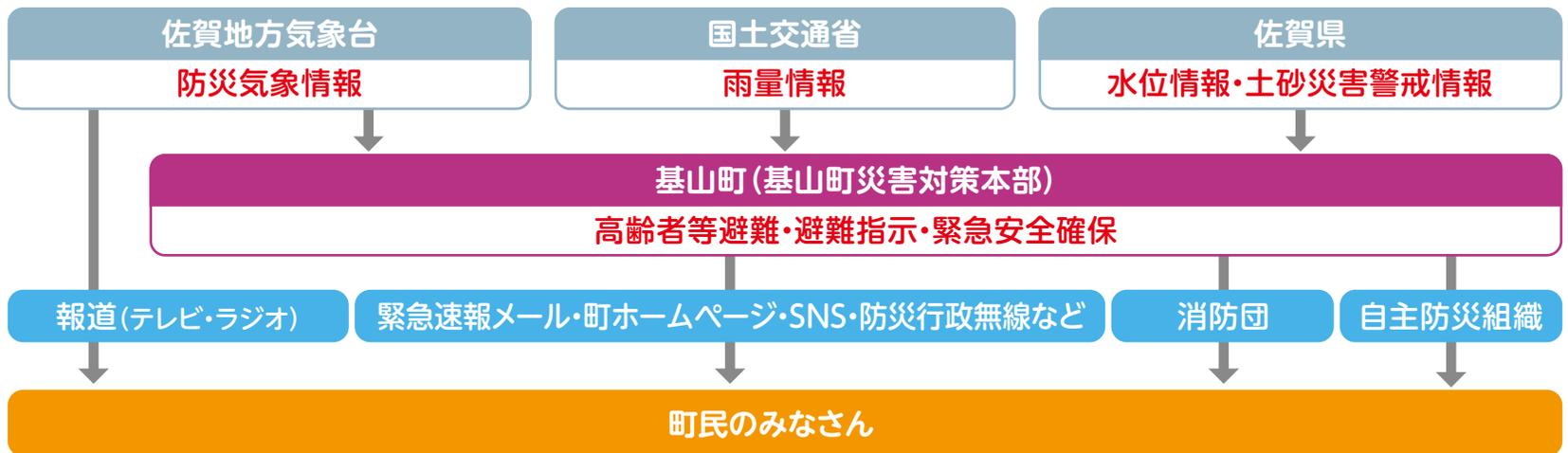
ペットの同行・世話

- 避難所から家が近い人は自宅で飼いましょう。
- ペットはケージに入れるか、リードでつなぎましょう。
- 避難所内の生活する場所にペットを持ち込まないでください。
- 決められた場所で飼い主が世話をしましょう。
- 飼い主がペットのいる場所を清掃しましょう。



情報伝達の経路

町では、災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには災害対策本部等を設置し、災害発生の際の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発令します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。



緊急速報メール 「緊急速報メール」により、緊急情報を配信します。

町では、災害時の緊急情報をより多くの人にお伝えするため、町内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」を配信します。

- 「緊急速報メール」とは、避難指示などの緊急情報を町内にいる人の携帯電話（NTTドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイル）へ一斉にメールを配信するものです。
※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合があります。詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。
- 配信する情報は、避難指示などの緊急かつ重要な情報です。
- 携帯電話を利用する人の費用負担やメールアドレスの登録は不要です。

キキクルについて

キキクル（危険度分布）は、大雨による災害から、あなたやご家族の大切な命を守るための情報です。佐賀地方気象台では、地域に根差した防災意識の啓発や支援を目的として、キキクルの佐賀県版の広報アニメーションとリーフレットを制作しています。災害発生の際の危険を察知し、安全なうちに避難するために、キキクルの情報をお役立てください。

キキクルってなに？

雨による災害の危険度を地図上にリアルタイム表示

キキクル 気象庁

土砂災害・浸水害・洪水災害の3種類



- 高 災害切迫 ← 重大な災害が発生または切迫している
- 危険 ← 重大な災害がいつ発生してもおかしくない
- 警戒
- 注意
- 低 □ 今後の情報等に留意



どしゃ
土砂キキクル



しんすい
浸水キキクル



こうすい
洪水キキクル



※洪水キキクルの「今後の情報等に留意」は水色表示となっています。

※佐賀地方気象台ホームページより一部抜粋、編集して掲載